

●海洋教育写真コンテストの入賞作品より、A部門（海の生き物部門）の優秀賞の作品です。右上は、松輪サバの地元、間口漁港で撮影した一枚です。南下浦小学校4年生の谷琉晴さんの作品で、タイトルは、「まつわサバ、きょうもおいしくいただきます」丸々と太って油がのった、大変おいしそうな黄色い松輪サバが、ズラリ



と並んで迫力があります。暗いアスファルトの色が、「生き生きしている」ように見えるくらい新鮮なサバの輝きを際立たせています。サバから「おいしく食べてね」と声が聞こえてきそうです。左は、旭小学校2年生の松井愛璃春さんの作品です。タイトルは「いっぽうつうこう」。タイトルと写真から、群れを作って一方向に泳ぐ魚の習性がよく伝わってきます。網をはさんだ2つの群れが同じく時計回りに回遊しているのも面白いですね。養殖いけすの様子を、よく観察していたからこそ撮影できたよい作品だと思います。右下は、剣崎小学校1年生の鈴木海風さんの作品です。今回の最年少受賞者です。タイトル



は「ヒトデ見つけた！」生きているアカヒトデを自慢げに見せてくれています。手の指がふやけていることから、長い時間、楽しく海で遊んでいたことが伝わってくる一枚です。画面からはみ出すくらいにアップにしているアカヒトデは迫力満点で、撮影したい対象がハッキリと分かりやすい構図になっているところも素晴らしいです。左下は、初声小学校4年生の川名翔絆さんの



作品です。タイトルは「アカテガニのぬけがら」、毘沙門湾で撮影しました。生きているように見えるくらい、赤々として新鮮な抜け殻は、みんなで仲良く一緒に着替えたものでしょうか？それとも、波の関係で一か所に抜け殻が集まったのでしょうか？本人のコメントからも、生物の不思議に対する興味が伝わってきます。とても珍しいシチュエーションを捉えた作品になっています。

●11月19日（日）、みうら市民まつりに、本研究所も参加しました。内容は、三浦ワカメを使ったワカメパン、ワカメドーナツの販売、海洋教育写真コンテストの入賞作品の展示及び抽選会。おかげさまで、パン、ドーナツはお昼過ぎに完売。抽選会でも、多くの方にご協力をいただきました。海藻は、光合成で、多くのCO<sub>2</sub>を吸収し（ブルーカーボン）、酸素を作っています。そこで、今回、ワカメパンの販売を企画しました。



●11月20日（月）に、初声小学校の2年生が、矢作海岸に磯観察に行きました。最初に、観音崎自然博物館の河野えり子館長から、事前にまとめておいた子どもたちの質問に答えていただきました。「カニなどのエサは何がいいか」「魚はなぜ水槽に口を付けているのか」などの質問が出ていました。その後、矢作海岸へ。寒い日だったのですが、子どもたちは夢中になって、海の生き物を探します。2回目のチャレンジということで、「カニがつかめるようになったよ」などの声が聞こえてきました。



（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所（854-9443）まで